

課題 1 . 子どもの虐待予防活動

活動項目	活動項目別の実績(概要)
実施活動	<p>1. 虐待ネットワーク委員会 (ケース検討会議の実施)</p> <p>1) 委員会は 39 回実施：今年度新規事例 27 家族、昨年度からの事例 30 家族を対象として、延べ 83 回のケース検討会議を実施</p> <p>2) 地域の外部機関を含めたケース検討会議は 38 回 (全 83 回の内) 実施 (地域との処遇会議 38 回の内訳)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域からの依頼 27 事例 (内 25 例は当センター受診事例) 総合病院医師 1 例、児童相談センター 24 例、小学校 1 例、保育園 1 例 ・ 病院から地域への依頼 11 事例：地域のネットワーク担当者と検討 <p>2. 地域ネットワーク支援</p> <p>1) 地域のケース処遇会議への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 19 回に医師、保健師などが参加 <p>2) 豊川保健所 地域ニーズ対応トータルヘルス事業へ医師・保健師が参加 (全 5 回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「母子を取りまく関係機関との連絡調整会議」により、会議、事例検討会、研修会「児童虐待の防止とネットワークづくり」を実施 ・ 宝飯郡小坂井町での児童虐待防止ネットワークづくりに参画。関係者が適宜集まれる体制を確立した。 <p>3) 瀬戸保健所 地域ニーズ対応トータルヘルス事業へ医師が参加 (全 2 回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 周産期からの連携体制確立のため連絡用紙とそのシステムの運営状況について報告された <p>4) 新城保健所 地域ニーズ対応トータルヘルス事業 (ワーキンググループ) へ保健師が参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「周産期からの虐待予防」の講話と意見交換 <p>5) 瀬戸保健所豊明支所 地域保健福祉パイオニア研修会へ保健師が参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「虐待予防活動の地域の役割～地域の子育て支援を考える～」の講話と意見交換 <p>6) 田原市 虐待予防研修会へ保健師が参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「虐待する親の心の世界と援助者の役割」の講話と意見交換 <p>7) 平成 15 年度愛知県保健センター連絡協議会職員研修会へ保健師が参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「子ども虐待予防への地域の子育て支援を考える - あいち小児保健医療総合センターの活動の実際から - 」の講話とグループワーク「支援の視点をみきわめる」に参加し、意見交換 <p>8) 三重県嬉野町子ども虐待防止に関する講演会へ保健師が参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「子どもの虐待予防と支援について」講話と意見交換 <p>9) 一宮保健所地域ニーズトータルヘルス事業へ医師・臨床心理士が参加 (5 回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 虐待ハイリスクの親グループ支援の事業についての具体的内容の検討と助言 <p>10) 江南保健所 地域ニーズ対応トータルヘルス事業関係者連絡会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関と保健機関との連携強化についての検討に医師が参加

<p>教 育・研 修</p>	<p>1. 被虐待児への治療に関する研修会 - 地域と医療機関の連携 - : 261 名 2. 周産期からの子ども虐待予防に関する研修会 - 医療機関と保健機関との連携 - : 142 名 3. 西尾地域健やか子育てネット 周産期からの子ども虐待予防研修会 : 93 名 4. 子育て支援による子ども虐待予防研修会 - 地域ぐるみでいきいき親子を - : 129 名 計 625 名</p>
<p>保健・医療相談</p>	<p>・保健・医療相談：虐待・虐待予防相談は 992 件で、全相談中 28.5%を占める。 （内 訳）面接 321 件、電話 650 件、文書・メール 6 件、訪問 2 件、同行 1 件、 その他 12 件：計 992 件。 （相談者）専門家からの相談が 550 件(55.4%)と最も多く、母 368 件(37.1%)、本 人 23 件(2.3%)、父 24 件(2.4%)、祖父母 11 件(1.1%)、配偶者 4 件(0.4%)、 その他 5 件(0.5%)、不明 7 件(0.7%)であった。 ・時間外電話相談にも 24 件の相談があった。</p>
<p>調 査・研 究</p>	<p>1. 子育て支援を軸とした地域の一般医療機関と保健機関との連携への介入的研究： 西尾地域健やか子育てネット調査を実施し、西尾保健所管内の一般医療機関と保健 機関を連絡票で結ぶネットワークシステムを作り、家族に同意の上、介入研究とし て子育て上支援を必要とした事例に訪問・相談を実施。他地域への応用を研究中。 2. 幼児虐待の危険性を知るためのチェックリスト(キッズアンケート)の研究：2 市 の 3 歳児健診時、先回の 1 歳 6 か月児健診の事後アンケート調査を実施し、分析中 3. 平成 14 年度厚生労働科学研究「児童虐待発生要因の解明と児童虐待への地域にお ける予防的支援方法の開発に関する研究」の委員として参加</p>
<p>学 術 活 動</p>	<p>学会・研究会報告等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子ども虐待への当センターと教育機関との連携 - 教育機関における虐待対応の実態と問題点について - 」 塩之谷真弓、第 46 回東海学校保健学会、H15.9.27 (名古屋市) ・「地域の子どもの虐待対応に小児保健が果たすべき役割」 塩之谷真弓、第 50 回日本小児保健学会、H15.12.15 (鹿児島市) ・「虐待を招くものとしての発達障害：虐待とさまざまな子ども像」 杉山登志郎、日本子どもの虐待防止研究会第 9 回学術集会、H15.12.20 (京都市) ・「地域ネットワークによる継続的な対応の有用性 - 地域治療プログラム確立への期待 - 」 山崎嘉久、日本子どもの虐待防止研究会第 9 回学術集会、H15.12.20 (京都市) ・「再受診が可能となった治療放棄事例の検討」 塩之谷真弓、日本子どもの虐待防止研究会第 9 回学術集会、H15.12.20 (京都市) ・「地域で子ども虐待に保健師が果たしている役割」 塩之谷真弓、平成 15 年度愛知県公衆衛生研究会、H16.1.24 (あい健康プラザ)

この事業に関連した実績としての調査報告やパンフレット、インターネット情報

資料の名称	発行日等	資料番号
1. 子どもの虐待とネグレクト Vol.5 No.1 (日本こどもの虐待防止研究会) 「地域の虐待対応におけるあいち小児保健医療総合センターの役割 - 地域治療プログラムへの提言 - 山崎嘉久	H15年7月31日	
2. そだちの科学・第2号 子ども虐待へのケアと支援 (日本評論社) ・ 子ども虐待がそだちにもたらすもの 「子ども虐待とそだち - これまでの研究から」 杉山登志郎 ・ 子ども虐待への支援 - 地域で子どもを支える 「保健センターによる介入」 塩之谷真弓 ・ 子ども虐待への包括的ケア 「子どもと家族への包括的治療と支援」 海野千畝子	H16年4月1日	
3. NHK総合テレビ ホリデーにっぽん 「家族再生 - 親と子の絆を信じる虐待外来」 病院の取り組みの紹介	H15年11月3日 放送	

資料番号は、課題名の番号 資料番号 のように附番してください。

実施活動項目ごとの評価：子どもの虐待予防活動

<p>評価の方法・手段</p>	<p>1. 虐待に関する保健・医療相談の推移 2. 虐待事例の継続性と治療中断後の再受診に関する報告 3. 地域ネットワーク支援の事後調査 4. 子育て支援を軸とした地域の一般医療機関と保健機関との介入的研究</p>						
<p>評価の概要</p>	<p>1. 有用性</p> <p>1) 虐待に関する保健・医療相談の推移</p> <p>虐待に関する保健医療相談は、</p> <table border="0" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>H13.11.1 開所～H14.3.31</td> <td style="text-align: right;">38件</td> </tr> <tr> <td>H14.4.1～H15.3.31</td> <td style="text-align: right;">345件</td> </tr> <tr> <td>H15.4.1～H16.3.31</td> <td style="text-align: right;">992件</td> </tr> </table> <p>と、増え続けている。このうち専門家からの相談は、昨年度の204件から550件に増加し、地域からの相談内容を分析すると地域相談者への助言・支援が多く、当センターが地域実務者への支援機関・虐待相談の窓口として役割を果たしてきていることが示唆された。</p> <p>2) 虐待事例の継続性と治療中断後の再受診に関する報告</p> <p>当センターには、平成13年11月の開所から平成15年3月末までに185例の被虐待事例が受診している。このうち治療中断例は35例(18.9%)で、治療中断後に再受診が可能となった5例(治療中断例の14.3%)について分析した。これらの事例は、子どもにも家族にも複雑な問題のある家庭が多くあった。</p> <p>中断期間は4か月から1年で、この間、児相、市家庭児童相談員、児童センター保育士を中心に、医療と連携した地域ネットワークで子どもと家族へ継続支援していた。</p> <p>再受診の契機は、保育士や福祉司が父や母との関係を再構築して相談を繰り返し再受診となったもの、地域支援の中、母からのSOS電話が入り、地域や当センターの保健部門が相談に乗りつつ、再度の受診へと繋がった例があった。治療放棄事例を再度受診へと結びつけた最大のきっかけは、地域の中で事例に応じたキーステーションを決め、そのキーパーソンを中心に地域ネットワークで継続的に支援してゆくことが重要であると考えられた。</p> <p>保健部門では5事例全てについて、保健師と医療ソーシャルワーカーが地域からの子ども虐待相談の窓口となり、当センターの虐待対応チームと地域のチームとの合同ネットワーク会議を設定したり、地域のネットワーク会議に参加したりした。また、受診時には家族に付き添って関係作りをしたり、保健部門への電話相談で母の不安の受け止めをしたりと、地域メンバーの一機関・一員としての役割も果たすなど、保健部門は、地域・医療・家族の三者をつなぎ、地域ネットワークを支援していた。</p> <p>3) 地域ネットワーク支援の事後調査</p> <p>虐待予防を含めた地域ネットワークを新たにシステムとして作ってゆく支援として、豊川保健所の宝飯郡小坂井町での「母子を取りまく関係機関との連絡調</p>	H13.11.1 開所～H14.3.31	38件	H14.4.1～H15.3.31	345件	H15.4.1～H16.3.31	992件
H13.11.1 開所～H14.3.31	38件						
H14.4.1～H15.3.31	345件						
H15.4.1～H16.3.31	992件						

整会議」に参加した。事後アンケートについては現在集計中である。この5回の会議により、関係機関が集まったことによる横の連携ができ、地域ネットワークの立ち上げへの土台作りができたといえる。

地域からのケース会議出席や、予防への研修会講師などは、今後も当センターの重要な地域ネットワークへの支援となる。

4) 子育て支援を軸とした地域の一般医療機関と保健機関との介入的研究

H16.1.31 現在で把握している319事例について、病院から保健機関へ支援依頼をした30例の内訳は、低体重児14例、母に精神疾患3例、育児不安3例、外国籍2例、経済的問題2例、双胎2例、母子家庭1例、母14歳と若年1例、飛び込み分娩・未入籍1例、再婚1例、DV1例、体重増加不良1例、心雑音・黄疸など4例(複数回答)であった。家族から訪問や相談の依頼があったものは59例で、家族からも病院からも依頼のなかったものは230例であった。

現在調査中であり、今後これをまとめ、県下に広げ、一般医療機関から子育て支援の視点で医療機関と保健機関とが連携しながら虐待予防をしてゆけるよう研究を進めてゆきたい。

2. 問題点

当センターにおける虐待受診事例、虐待の保健・医療相談事例は増加の一途をたどっている。虐待ネットワーク委員会ケース処遇会議を地域の担当者と開催する割合も増加し、開催日の調整にも追われている。

こうした中で、治療中断事例の18.9%は問題であり、受診した虐待事例に応じた地域の体制整備とともに、中断事例への地域との体制づくりは緊急課題といえる。処遇会議をした後の、定期的な検討が不十分なケースもあった。

また増えつづける虐待対応のみでなく、虐待に至らないための母子保健における虐待予防活動は緊急課題ともいえるテーマで、周産期からの子育て支援の視点による一般医療機関と保健機関との連携は支援方法が確立されていない分野といえる。

3. 事業継続に関する意見

センターでの虐待への心療科等の治療が有効に機能するためには、治療中断後の再受診事例の検討からも、事例に応じてキーステーションを決め、生活面・社会面・福祉面を包括した地域ネットワークで継続的にケースを支援していることが重要である。当センター内の虐待対応チームが、増えつづける被虐待事例の1事例1事例を大切に、事例内容を検討し、事例に応じた地域の体制整備を図り、児相を含めた地域ネットワークと連携して継続支援をしてゆく必要がある。

また、地域支援についても、保健・医療相談、地域でのネットワーク会議や研修会への参加、地域でのケース処遇会議への助言者としての参加という形で支援を継続してゆきたい。なお、地域から要望の大きい各種教育・研修を継続開催し、子どもの虐待予防活動を推進してゆきたい。

各種実施中の調査研究を今後も継続し、母子保健活動の空白期間となりがちな周産期からの虐待一次予防に関して研究を進め、地域に還元してゆきたい。

研修会実績と評価(1) 被虐待児への治療に関する研修会 - 地域と医療機関の連携 -

実施日時	平成15年7月19日(月) 午後1時30分から午後4時15分	
講師	東京大学大学院医学系研究科・医学部 健康科学・看護学専攻看護学講座 助教授 上別府圭子	あいち小児保健医療総合センター 心療科部長兼保健センター長 杉山 登志郎
講演主題	被虐待児・その後 ～回復の機会～	子ども虐待への総合的治療
参加者数	261名 (児童相談所の福祉関係者、保健所・保健センターの保健関係者、各市児童課・保育園関係者、小中学校の教育関係者)	
講演会	講演内容の要旨	
	<p>1 被虐待児・その後 ～回復の機会～ 東京大学大学院医学系研究科・医学部健康科学・看護学専攻看護学講座 助教授 上別府圭子</p> <p>1)虐待 なぜ、連携なのか 絶対に繰り返してはいけない! 「孤立」が発生要因 医療機関のみでは何もできない。関係機関で支える重要性。</p> <p>2)治療(ケア)の2種 修正的接近：環境自体の治療的機能(里親・養護施設・保育園・学校) 地域が担当 回復的接近：トラウマそのものへの手当て 医療機関が担当</p> <p>3)症例紹介：産後のうつ、青年期の症例から 親の認知のゆがみと虐待 子どもの心身の脆弱性(子どもの認知のゆがみ) 虐待</p> <p>4)被虐待児の特徴と回復的接近：信頼関係の樹立、激しい怒り・破壊的行動 プレイの枠組みを、 トラウマの再現 感情の開放と体験の再統合、第二の再統合、苦痛を伴うプレイから遊びへ 子どもが大人の自己愛に利用されることのないように!</p> <p>2 子ども虐待への総合的治療 あいち小児保健医療総合センター心療科部長兼保健センター長 杉山登志郎</p> <p>1) これまでの虐待治療の問題点：予防策が不十分、保護重視で親と子の治療に手がまわらない</p> <p>2) あいち小児保健医療総合センターの虐待対応チームの紹介、育児支援外来について</p> <p>3) 虐待家族の類型：育児不安型、完全主義的養育態度、愛情欠如型、暴力衝動に対するコントロール不足・欠如型、未熟型、人格障害、精神障害</p> <p>4) 症例紹介：地域との役割分担と、医療機関の対応について</p> <p>5) 子どもの虐待の治療と解離：被虐待児の治療とは解離性障害の治療、自己感覚の獲得までの長い経過、家族(環境)への働きかけが必要不可欠、医療を含めたチームによる治療が必要</p> <p>6) 子どもの健全な攻撃性を育てるには</p> <ul style="list-style-type: none"> ・攻撃的なエネルギーは本来、生きてゆくのに必要なもの ・暴力の問題：表文化の否定と裏文化の蔓延 ・内省力と国語力：文化の変容と行動化傾向 ・悩みを如何にして保持できるか 	

研修会実績と評価(2) 研修者によるアンケート評価

出席者：261人、アンケート回収数：212枚（回収率81.2%）

研修会名	被虐待児への治療に関する研修会 - 地域と医療機関との連携 -					
研修者の職種	臨床心理士2人、作業療法士11人、保健師44人、看護師3人、保育士106人、福祉司6人、家庭相談員1人、教諭11人、養護教諭21人、事務職員2人、その他5人 計212人					
研修者の年齢分布	20歳代：38人、30歳代：23人、40歳代：54人、50歳代：45人、60歳代：1人、不明51人					
研修者の性別	女性：170人 男性：15人、不明：27人					
アンケート項目		1 よい	2	3	4	5 わるい 不明
	1. 研修全体のプログラムは？	28(13.2%)	53(25)	71(33.5)	4(1.9)	56(26.4)
	2. 虐待と思われるケースに出会ったことが 1 ある 2 ない 5 わからない	148(69.8)	50(23.6)			11(5.2) 5(1.4)
	3. 「ある」の方で困ったことはありましたか 1 ある() 2 ない	131(61.8)	14(6.6)			67(31.6)
	4. 職場内での連携・支援体制はできていると感じますか 1 十分できている 2 できている 3 まあまあできている 4 できているとはいえない 5 できていない	7(3.3)	53(25)	91(42.9)	48(22.6)	11(5.2) 2(0.9)
	5. 地域での連携・ネットワークはできていると感じますか 1 十分できている 2 できている 3 まあまあできている 4 できているとはいえない 5 できていない	2(0.9)	33(15.6)	103(48.6)	61(28.8)	10(4.7) 3(1.4)
	6. 虐待児・その後～回復の機会～は 1 大変参考になった 2 参考になった 3 まあまあ参考になった 4 あまり参考にならなかった 5 参考にならなかった	16(7.5)	55(25.9)	91(42.9)	45(21.2)	3(1.4) 2(0.9)
	7. 子ども虐待への総合的治療は 1 大変参考になった 2 参考になった 3 まあまあ参考になった 4 あまり参考にならなかった 5 参考にならなかった	54(25.5)	102(48.1)	46(21.7)	6(2.8)	4(1.9)
	8. 研修会は今後の各機関の事業の参考に 1 大変参考になった 2 参考になった 3 まあまあ参考になった 4 あまり参考にならなかった 5 参考にならなかった	25(11.8)	94(44.3)	72(34.0)	9(4.2)	1(0.5) 11(5.2)
	9. 今後虐待予防研修で聞きたいテーマ 1 あり() 2 なし	98(46.2)	54(25.5)			60(28.3)
10. 子ども虐待予防事業に関する要望・意見 1 あり() 2 なし	35(16.5)	103(48.6)			74(34.9)	
<p>虐待ケースに出会い困ったこと：保護者への対応・接し方・支援 22、親が拒否的・精神など関わりが難しい 12、子への接し方・心理的ケア 5、関係者との連携が困難 5、学校内で話すだけで具体的な連携が取れない 1、医師の治療方針に合わせた学校対応に迷った 1、保育士の役割に悩んだ 2。</p> <p>研修の希望テーマ：保護者への対応・支援方法 15、家族の再構築 2、具体的な事例 10、子への接し方・対応方法 6、ネットワーク作り・連携 10、予防対策 3、DVと虐待 3 教育現場で今できることしなければならないこと 1。</p> <p>センターへの意見：各地域での虐待予防研修を希望 1、各地域でネットワーク作りができるとよい 1、児相と定期的にケース検討をして欲しい 1、虐待対応の医療機関を増やすための医療機関向け研修 1、関わる人の心のケア 2、保育園内で担任だけに任せてはいけなく強く感じた 1、虐待は家族問題だと再確認 1、小児センターの取り組みがよく分かった 3、虐待事例への助言 1、予防に関する啓発 2、MCGなど先進地の情報提供 1。</p>						

研修会実績と評価(1) 周産期からの子ども虐待予防に関する研修会 - 医療機関と保健機関との連携 -

実施日時	平成15年10月28日(火) 午後2時から午後4時30分
講師	東京福祉大学社会福祉学部 実習担当主任教授 社会学博士 ヘネシー 澄子
講演主題	「愛着形成への育児支援 ～アメリカ・オレゴン州の活動から～」
参加者数	142名 (医師、看護師、助産師、保健師、児童福祉司、看護教員など)
講演会	<p>講演内容の要旨</p> <p>特別講演「愛着形成への育児支援 ～アメリカ・オレゴン州の活動から～」 東京福祉大学社会福祉学部 実習担当主任教授 社会学博士 ヘネシー 澄子 座長 愛知県中央児童・障害者相談センター 児童専門監 兼 あいち小児保健医療総合センター 保健部門医師 前田 清</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本では親による児童虐待と放置が社会問題に。が、起きてからの対策に追われているのが現状。 ・なぜ子育てに早期介入が大切か：胎児期から乳児期に脳神経回路が次々に形成。 乳児期の親から子への働きかけによる愛着形成が、その後の成長や虐待予防にも重要。 ・オレゴン州での画期的な子育て支援活動の紹介 予算削減の時代にあえて作った新しい組織 1993年オレゴン児童・家族委員会：児童虐待や予防に対応する新しい組織を設置 児童と家族に関するあらゆる関係機関と募集した一般市民で「児童と家族の州委員会」 その管轄下に郡レベルの「地域安全ネットワーク」を担当者の配置もしつつ設置 地域の問題から対策を立て予算化し、下記の予防プログラムを事業展開。 「マリカ・ホーク健康な出発」支部：所長、副所長、ファミリー・ヘルパー 18人、看護師2人、事務2人 病院への「新しい赤ちゃん用こそ訪問」で情報提供とCDプレゼントをし、アンケートを実施 13郡の中央研究機関でデータ分析し「要注意」の母を「健康な出発」支部に報告 ファミリー・ヘルパー(病弱児は看護師)が家庭訪問し再度要注意の確認の上、週1回1年間の子育て 支援訪問を提案。無料で強制ではないが、93%が利用している。毎週の訪問で抱き方、哺乳の 仕方、愛着形成を体験させる具体的な子育て支援や家族問題へのケースワーク、カンパリング等を実施 1歳からは子育て支援訪問は各週、2歳からは月1回となり、3歳で保育園でのフォローへつなく このサービスを利用した親としなかった親を分析した結果、虐待、放置の件数が半減していた 州議会で2002年から全域で実施が決まる。背後には、虐待や放置の予防だけでなく、愛着関係 を築くことで良心のある市民が増え、長い目でみれば非行や犯罪も減り州予算の節約につながる 報告 「周産期でのハイリスク新生児の退院後の支援体制調査から」 あいち小児保健医療総合センター 保健師 中澤 和美 ・周産期医療協議会関連医療機関からの子育て支援に視点を置いた連絡票は有用であった。このネ ットワークが地域に広がることで、ハイリスク新生児の虐待予防対策への効果が期待される。
	<p>主な質問と回答</p> <p>Q：親が虐待を認めない時のアメリカの対応は。 A：まず通報は専門職がしなかったら免許剥奪。48時間以内に面接し虐待と判断したら48時間以内に、親権停止など具体的な親子別々の計画を立てる。親は48時間以内に裁判所へ。 Q：ハイリスクの母の場合、母の妊娠中からの教育はしているか。 A：妊娠が分かったら予防担当局が訪問。母となるための教育は病院などで妊娠時期に合わせたグループプログラムを実施し、夫婦関係を強めるような対応を実施。</p>

研修会実績と評価(2) 研修者によるアンケート評価

出席者：142人、アンケート回収数：104枚（回収率73.2%）

研修会名	周産期からの子ども虐待予防に関する研修会 - 医療機関と保健機関との連携 -					
研修者の職種	看護師 33人、助産師 21人、保健師 25人、臨床心理士 2人、福祉司 3人、保育士 3人、大学生 4人、大学教員 3人、民生児童委員 1人、事務職員 1人、その他 2人、不明 6人 計 104人					
研修者の年齢分布	20歳代：25人、30歳代：23人、40歳代：22人、50歳代：18人、60歳代：2人、不明 11人					
研修者の性別	女性：93人 男性：5人 不明：6人					
アンケート質問項目		1よい	2	3	4	5わるい 不明
	1. 研修全体のプログラムは？	50(48.1%)	30(28.8)	13(12.5)	1(1.0)	10(9.6)
	2. 虐待と思われるケースに出会ったことが 1ある 2ない 5わからない	57(54.8)	38(36.5)		8(7.7)	1(1.0)
	3. 「ある」の方で困ったことはありましたか 1ある() 2ない	41(71.9)	14(24.6)			2(3.5)
	4. みなさんの職場内での連携・支援体制は できていると感じますか 1十分できている 2できている 3まあまあできている 4できているとはいえない 5できていない	3(2.9)	20(19.2)	38(36.5)	27(26.0)	11(10.6) 5(4.8)
	5. 地域での連携・ネットワークはでき ていると感じますか 1十分できている 2できている 3まあまあできている 4できているとはいえない 5できていない		6(5.8)	41(39.4)	44(42.3)	11(10.6) 2(1.9)
	6. 周産期でのハイリスク新生児の退院後 の支援体制調査からは参考になりましたか 1大変参考になった 2参考になった 3まあまあ参考になった 4あまり参考にならなかった 5参考にならなかった	24(23.1)	31(29.8)	38(36.5)	7(6.7)	2(1.9) 2(1.9)
	7. 愛着形成への育児支援～アメリカ・オレ ゴン州の活動から～は参考になりましたか (分類は6に同じ)	65(59.6)	31(29.8)	7(6.7)	1(1.0)	
	8. 研修会の内容は今後の各機関の活動に 参考になりましたか 1非常に参考になった 2参考になった 3まあ参考になった 4あまり参考にならなかった 5参考にならなかった	38(36.5)	52(50)	12(11.5)	2(2.0)	
	9. 今後、周産期からの虐待予防への医療 と保健との連携について 1積極的な連携が必要 2連携が必要 3現状程度でよい 4連携は期待できない 5連携は困難	79(16.0)	23(22.1)		1(1.0)	1(1.0)
10. 子ども虐待予防事業に関する要望・意見 1あり() 2なし	35(33.7)	50(48.1)			19(18.2)	
虐待ケースに出会い困ったこと：支援・介入方法9、親教育が難しい3、他機関調整2、保護のタイミング1、保護後の再統合が難しい2、親に自覚がないこと1、虐待者がはっきりしない1、妊婦のDV1、入院発見の場合三交替看護師の関わり方が難しい1、入院中痩せていてどんな育児をしていたのか気になったが踏み込んで関わらなかった1、産後の入院中は虐待を感じさせる様子がなくどの点を見逃したのか1。						
研修の希望・センターへの意見：症例検討3、センターの活動紹介2、地域ネットワークづくりと各機関の役割3、病院からどう地域へネットワーク作りをしていったらよいのか3、病院の具体的なシステム化を希望1、予防活動の先進地域の活動1、再統合への各機関の役割1、精神・知的障害妊婦への保健師の関わり方1、DVと虐待の関連1、今回のような実践的な活動から学べる内容1、セクシュアリティの問題1。						

研修会実績と評価(1) 西尾地域健やか子育てネット 周産期からの子ども虐待予防研修会

実施日時	平成16年1月26日(月) 午後2時30分から午後4時30分
講師	東京大学医学部 産科婦人科教室 荷見 よう子
講演主題	気になる子、気になる親への支援 - 医療機関と保健機関との連携 -
参加者数	93名 (医師、保健師、助産師、看護師、保育士、家庭児童相談員、福祉課・児童課事務職員など)
講演会	<p>講演内容の要旨</p> <p>「気になる子、気になる親への支援 - 医療機関と保健機関との連携 - 」 東京大学医学部 産科婦人科教室 荷見 よう子 座長 あいち小児保健医療総合センター 総合診療部長兼保健室長 山崎 嘉久</p> <ol style="list-style-type: none"> 分娩時からのかわりでは時間が足りない <ul style="list-style-type: none"> 家族背景、生育歴などの情報、妊婦健診受診時の様子 外来受診中からの情報収集が大切 周産期に見られるハイリスク母特有の特徴 <ul style="list-style-type: none"> 十代の出産、経済的困難、未入籍、受容できない妊娠、未受診がち、待ち時間に我慢できない、精神疾患・生育歴に問題など あくまでもリスクで対応には偏見のないように十分注意を! 外来でのかわり：本人記載の看護記録にも重要な記載が多くある。 <ul style="list-style-type: none"> 待ち時間の気になる言動の記録、必要場合は妊娠中から保健・福祉機関に連絡し連携 分娩時のかわり：分娩時にリスクが分かることも。虐待の既往を疑わせる分娩のタイプ <ul style="list-style-type: none"> 抵抗するタイプ：痛みに抵抗し我を忘れてあばれる やさしく説明! コントロールするタイプ：自分の力でいい体験となるように できるなら要求を聞いてあげる 降伏するタイプ：解離症状がでてしまい、言われるがまま、なすがまま 退行するタイプ：不完全に解離を起こして子ども返り 声かけして連れ戻す ...過去の虐待を問いただす必要はない。よいお産へ支援。早期から母児接触をし愛着形成を。 産褥期のかかわり <ul style="list-style-type: none"> 性的虐待体験からの母乳育児のストレス時は無理強いしない。退院早期に助産師から電話してみる。母乳外来の活用。産褥うつ病に注意。必要に応じ保健・福祉機関に連絡し家庭訪問を依頼。 育児困難の早期からの予防的な支援により、虐待から子どもを守る <ul style="list-style-type: none"> 対応の原則：批判ではなく援助。一人で抱え込まない。すぐに放り出さない。 今後の課題 <ul style="list-style-type: none"> 医師への啓発(産婦人科、小児科、精神科など) 知識をもっている看護職にさらに関心をもってもらう 保健機関からのフィードバックによりアセスメント能力を高める 家庭訪問を頻回にできるシステムをつくる <p>報告</p> <p>子育て支援を軸とした地域の一般医療機関と保健機関との連携への介入的研究 「西尾地域健やか子育てネット調査」について 総合診療部長兼保健室長 山崎 嘉久</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査へのお礼と、調査の経過報告 <p>事務局に届いている189例について詳細報告。母の精神疾患や、子の体重増加不良、母が14歳、飛び込み分娩で未入籍など、継続訪問が必要な事例があった。</p>
	<p>主な質問と回答</p> <p>Q 保健から家庭訪問する場合、父母の了解がとれていないと大変訪問しにくく困ることがある。</p> <p>A 保護者の了解は入院中にとれるように、医療機関側は限られた時間の中で信頼関係を築きながら了解をとる努力はすべき。母にも一人で抱え込まないよう、支援してもらってゆこうと伝えてゆく。取れないときは、地域のネットワークを作り、保健が接触できるよう努力することも大切。</p>

研修会実績と評価(2) 研修者によるアンケート評価

出席者：93人、アンケート回収数：63枚（回収率67.7%）

研修会名	西尾地域健やか子育てネット 周産期からの子ども虐待予防研修会					
研修者の職種	医師2人、保健師14人、助産師13人、看護師7人、保育士14人、不明13人 計63人					
研修者の年齢分布	20歳代：5人、30歳代：15人、40歳代：14人、50歳代：11人、80歳代：1人、未記入17人					
研修者の性別	女性：55人 不明：8人					
アンケート質問項目		1 よい	2	3	4	5 わるい 不明
	1. 研修全体のプログラムは？	30(47.6%)	23(36.5)	5(7.9)	1(1.6)	1(1.6) 3(4.8)
	2. 虐待と思われる様なケースに出会ったことがありますか 1 ある 2 ない 5 わからない	41(65.1)	18(28.6)			4(6.3)
	3. 「ある」の方で困ったことはありましたか 1 ある() 2 ない	31(49.2)	9(14.3)			23(36.5)
	4. 周産期からの気になるケースを他機関へ紹介したことはありますか 1 ある 2 ない	17(27.0)	39(61.9)			7(11.1)
	5. 周産期からの気になるケースを他機関から紹介されたことはありますか 1 ある 2 ない	11(17.5)	38(60.3)			14(22.2)
	6. 他機関紹介ケースの結果の連絡は 1 連絡があった 2 もらったりもらわなかったり 3 連絡はなかった	11(17.5)	10(15.9)	6(9.5)		36(57.1)
	7. 「気になる子、気になる親への支援」は 1 大変参考になった 2 参考になった 3 まあまあ参考になった 4 あまり参考にならなかった 5 参考にならなかった	30(47.6)	27(42.9)	3(4.8)	1(1.6)	2(3.2)
	8. 研修会は今後の各機関の事業に参考に 1 非常に参考になった 2 参考になった 3 まあ参考になった 4 あまり参考にならなかった 5 参考にならなかった	25(39.7)	32(50.8)	4(6.3)		1(1.6) 1(1.6)
	9. 今後、周産期からの虐待予防への医療と保健や関係機関との連携について 1 積極的な連携が必要 2 連携が必要 3 現状程度でよい 4 連携は期待できない 5 連携は困難	40(63.5)	20(31.7)	1(1.6)		2(3.2)
10. 子ども虐待予防に関するセンター・保健所への要望、ご意見等は 1 あり() 2 なし	15(23.8)	33(52.4)			15(23.8)	
虐待事例で困ったこと：母が精神で関わりが難しい3、保護者の育児放棄1、親にその気がなく関わり方が難しい3、DVと虐待のあるケース対応2、母への支援のし方が難しい2、児相との関係がうまく進まない2。						
虐待予防事業へのセンター・保健所への要望、感想：医療機関と連絡をとりながら援助をつなげられるような様式の作成が必要1、地域共通のスコアシートがあるとよい1、保健所と各機関の連携の強化を望む1、具体的な事例紹介についてディスカッションできたらよい1、保健機関との連携を大切にしたい1、保育園現場で虐待対応に悩んでいる1、相談や助言や対応に期待2。						

研修会実績と評価(1) 子育て支援による子ども虐待予防研修会 - 地域ぐるみでいきいき親子を -

実施日時	平成16年2月28日(土) 午後1時から午後3時
講師	育児サポーター、「地域ぐるみの子育てをすすめるひだまりの会」代表、 NPO「子どもとメディア」常務理事、IPA(子どもの遊ぶ権利のための国際協会) 会員、大学・専門学校講師、福岡県社会教育委員 高山 静子
講演主題	親と子が主役の子育て支援
参加者数	129名 (保健師、保育士、民生・児童委員、福祉課・児童課事務職員など)
講演内容の要旨	「親と子が主役の子育て支援」 育児サポーター、「地域ぐるみの子育てをすすめるひだまりの会」代表 高山 静子 座長 あいち小児保健医療総合センター 総合診療部長兼保健室長 山崎 嘉久
	<p>1 全ての子育て家庭に支援が必要な時代に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域は車のための場所、通り過ぎるだけの場所 つい家の中にひきこもりがちに <p>2 新しい子育ての問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・孤立した育児によって極端な育児が増加中 大人と同じ生活を幼児がする：10時以降に眠る子ども = 57.3% (1.6歳～3歳10ヶ月) TVビデオ視聴の早期化・長期化：1日1時間以上TVを見せている4か月児 = 48% ...5時間以上は10人に1人。ここ10年くらいの変化。幼児教育や早期教育のビデオ販売。 1日のTV視聴時間：1歳児平均 3時間5分 乳幼児期からのTVビデオ長時間視聴による問題：視線が合わない、表情が乏しい、 気持ちが通わない 友だち関係がもてない 遊びが限られている テレビビデオ症候群：これらの症状はTV影響の子の場合は見せるのを止めると全て治る <p>・今の子育て：誰もが密室育児、親が親として成長しにくい、子どもが健やかに育ちにくい</p> <p>3 親と子が主役の子育て支援とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援：母の心理支援 + 生活支援の視点、子どもへの支援も ・居場所型交流支援：ひだまりの会のサロンを実施 <p>子育てに正解はない 迷って当たり前、初めては分からない 悩んで当たり前、だからいっしょに！ 特徴：非会員制度、ノンプログラムがプログラム、指導者がいない</p> <p>自由は放任とは違う。環境を整え、子どもの豊かな遊びが生まれるような配慮は必要。 一方的に指導する遊びを学習させない：自然にやりとりのある遊びを学習させる 子どもの笑顔が子育ての喜び：子にいきいきと！親へ関わり方を教え、楽しい親子関係へ。 親同士の気軽な相談を推進：一緒に食事、お茶を飲む...ノートなど、交流を促すしかけ作り 子育ての日常を豊にする場所：ふつうの遊び・ふつうのしつけ・ふつうの関わり 子育てコミュニティで他の子や我が子と接し、支援者に守られ、親と子が主役の支援が実現！ 虐待予防に必要な支援 乳児期からのメディア漬け育児の危険性を伝える 自然な遊びや関わり方を学習できる居場所型支援を充実：親に横並びでの支援の大切さ！ 食事・睡眠など子育てに必要な最低限度の知識を上手に伝える 子育て支援は生活支援！ 親子の日常をゆたかに！</p>
講演会	<p>主な質問と回答</p> <p>Q 公共育児サークルの今後の形に悩んでいる</p> <p>A バランスとりが大切。0～2歳の母が侵入的親子関係を獲得していたら伝えてゆく必要がある。保育士は親より子の遊びが分かる。親が必要なことを見極め、話すこと。子ども自身の自分作りの遊びの大切さを伝える。保育者は子の代弁者であるべき。社会に声をあげよう！</p>

研修会実績と評価(2) 研修者によるアンケート評価

出席者：129人、アンケート回収数：112枚（回収率86.8%）

研修会名	子育て支援による子ども虐待予防研修会 - 地域ぐるみでいきいき親子を -						
研修者の職種	保育士77人、保健師10人、民生・児童委員6人、家庭児童相談員3人、事務職員4人、不明12人 計112人						
研修者の年齢分布	20歳代：27人、30歳代：12人、40歳代：33人、50歳代：23人、60歳代：1人、未記入16人						
研修者の性別	女性：100人 男性：3人 不明：9人						
アンケート質問項目		1	2	3	4	5	わるい 不明
	1. 研修全体のプログラムは？	83(74.1%)	12(10.7)	5(4.5)	1(0.9)	1(0.9)	10(8.9)
	2. 虐待と思われる様なケースに出会ったことがありますか 1ある 2ない 5わからない	81(72.3)	26(23.2)			3(2.7)	2(3.3)
	3. その事例をどうしてゆくか、園内・所内の関係者で話し合いましたか 1話し合った 2話し合えなかった 5わからない	78(69.6)	9(8.0)			4(3.6)	21(18.8)
	4. みなさんの職場内での連携・支援体制はできていると感じますか 1十分できている 2できている 3まあまあできている 4できているとはいえない 5できていない	6(5.4)	31(27.7)	58(51.8)	15(13.4)	2(3.3)	
	5. 虐待と思われるケースを児童相談所へ通報（通告）したことがありますか 1ある 2ない	38(33.9)	65(58.0)				9(8.1)
	6. 虐待と思われるケースについて、関係者でケース会議をしたことがありますか 1ある 2ない	47(42.0)	57(50.9)				8(7.1)
	7. 地域全体での連携・ネットワークは 1十分できている 2できている 3まあまあできている 4できているとはいえない 5できていない	2(3.3)	22(19.6)	45(40.2)	38(33.9)	4(3.6)	1(0.9)
	8. 「親と子が主役の子育て支援」は 1大変参考になった 2参考になった 3まあまあ参考になった 4あまり参考にならなかった 5参考にならなかった	84(75)	25(22.3)	2(1.8)	1(0.9)		
	9. 研修会は今後の各機関の事業に参考に 1非常に参考になった 2参考になった 3まあ参考になった 4あまり参考にならなかった 5参考にならなかった	57(50.9)	50(44.6)	3(2.7)	1(0.9)		1(0.9)
10. 子ども虐待予防事業（研修も含む）に関するセンターへの要望、ご意見等は 1あり() 2なし	23(20.5)	59(52.7)				30(26.8)	
<p>感想・意見：親支援を学び考え直すことができた15（横並びの支援者でありたい3。「子育て支援」を気負いすぎて親の力を奪っていたように思います。「目からウロコ」の内容で自分自身の肩の力が抜けました。園庭開放や環境作りなど今後の参考にしたい。迷いの中の活動展開だったが見直せそう。何をどう支援するのか悩んでいた時で光が見えた。今までの子と親への支援は間違っていたと気付いた。今日の話参考に、保育士としてプロとして関わってゆきたい。反省点が多かった2。親の可能性を信じることと、知らないことを上手にみせて知らせてゆく支援方法に強く感銘した。）ひだまりの会のようなサロンを作りたい2、メディア漬け育児の話地域でしたい4。</p> <p>研修希望：虐待している親への接し方を学びたい1、杉山先生に今の地域での現状を話して欲しい1、各機関の連携方法について1、ケースワーク研修1、「メディアと育児」の研修1、交流型支援の具体的な立ち上げ研修1、繰り返しこうした話を聞きたい1、高山先生の環境とおもちゃの話1。</p>							